

《埼玉協同病院だより》

ふれあい

2013年 No.309

発行：埼玉協同病院
〒333-0831 川口市木曾呂1317
Tel.048-296-4771
Fax.048-296-7182

7

おもな記事●認定看護師シリーズ⑦/
夏休み企画「いのちの授業公開講座」
健康マメ知識／虹の投書箱／連絡バス時刻表

診療科紹介

緩和ケア病棟

がん患者様の体や心のつらさを 和らげるために開設しました

日本では昭和56年から、がんが死亡順位の第1位になっています。平成10年のがんの死亡数は28万3,827人で死亡総数の3割を占めています。そのような背景のなか、2012年、当院ではがん診療のレベルアップを目指し、がん指定病院と同等の機能整備のひとつとして緩和ケア病棟（緩和ケア＝がん患者様の体や心のつらさを和らげ、その人らしさを大切にする）設置の計画が検討されてきました。そして、2013年3月28日に開設され、同月30日より入院受け入れを開始しました。

緩和ケア病棟では、医師をはじめ看護師・薬剤師・リハビリ・栄養士・医療福祉相談員・看護助手・病棟事務・クラークと多職種で構成しています。

そのなかでも、がん緩和ケアに対して熟練した技術と知識をもった看護師（緩和ケア認定看護師）2名が病棟に配属されています。病院内全体はもちろん法人内の診療所で、がんによる痛みや症状のコントロール方法、患者様やご家族の心のケアに対しての相談を受けています。

緩和ケア病棟では、患者様の痛みや心のつらさを和らげ、ご家族と少しでも長く穏やかに過ごせる時間を作れるように支援しています。

患者様は、入院当初は痛みや呼吸が苦しくつ



照井幸雄病棟医長（前列中央）と病棟スタッフ

らそうに病棟に来ますが、痛みのコントロールやケアでご家族とお話しが出来るようになったり、好きな食べ物を少量でも召し上がれるようになる方もいます。また、患者様の「ラーメンが食べたい」の一言に当院の食養科の調理にて、ご家族と夕食にラーメンを召し上がった患者様もいます。

つらい症状を和らげ、少しでも穏やかな日々を過ごせるように、また、やり残したことが少しでもできるように支援していきたいと思ひます。

患者様が希望されるケアができるよう、スタ

ッフー同日々研鑽していきたいと思ひます。

緩和ケア病棟に入院される患者様は、抗がん剤などの治療を目的とせず、がんによって生じる痛みの緩和を必要としている場合や、患者様とご家族が病名や病状を告知され、緩和ケア病棟への入院を希望されていることが条件となります。

入院を希望される場合は、当院医療福祉相談室にご相談ください。

（病棟看護師長 安藤美智子）

医療生協さいたまでは、毎年7月・8月を「サマー増資月間」として、増資のお願いのキャンペーンを行っています。生協コーナーや各診療科、病棟や地域において、お声がけしております。

地域の中で求められている、幅広く、より高度な医療機能の拡充に努め、最近では、超音波内視鏡の購入など着実に医療機器を整えています。

期間中は、病院内の各所で増資封筒を配布します。組合員が「出資して、意見を出して、育てながら利用する」医療生協の病院づく

サマー増資のお願い

りに、ぜひご協力をお願いいたします。

（地域活動委員会 鈴木 遼介）

超音波内視鏡とは？

膵・胆道疾患の早期発見や胃・

食道がんの浸潤度合の診断サポートを目的にしてつくられたもので、消化管の中からなら360度の

広範囲な観察に加え、ドブラ機能により血管やリンパ節の識別や臓器の位置関係の判別が行いやすくなり、診断性能の向上と検査時間の短縮につながります。また、これまで原発不明のため治療方針の決定に難渋した症例などでは、消化管からアプローチできる病変なら病理診断が可能となります。さらに、疼痛コントロール困難な末期がんの患者様への神経ブロックによる除痛治療への可能性など、今後の当院の診療レベルの大きな向上につながります。

（消化器科科長 福本 顕史）



超音波内視鏡全景（左）、スコープ先端部と穿刺針（右）



川口市がん検診が スタート!

川口市がん検診がはじまりました。7月1日(月)から11月30日(土)までです。大腸がん、肺がん、子宮がん検診は医療機関への申し込みで受診することができます。がん治療は早期発見、早期治療がとても大切です。

川口市に住民登録があれば、対象年齢の方は受診することができます。

特定健診と合わせて、受診しましょう。

毎年受診しながら、「がん」のを知る機会、自分の健康を考える機会にしましょう。

（健康増進センター）

職種紹介 認定看護師シリーズ⑦

患者様の本意を汲み取り「じぶんらしく」過ごせる支援を行います

看護師1年目に配属された病棟が消化器内科でした。その病棟では、がんの終末期患者様が多くおられ、看取りの場面も多く、試行錯誤しながら、懸命に患者様の最期の時が安らかに過ごせるケアを行っていました。その後、外科や訪問看護を経験し、再び消化器内科に勤務することになりました。さまざまな経験を経て、がん終末期の患者様にも以前よりは関わられるようになっていました。そんな中、抗がん剤治療ができなくなり、精神的にふさぎ込んでいる患者様に対して、どのような言葉をかけて良いのか、部屋に入ることさえ、苦痛に感じるがありました。患者様の精神的な苦痛を緩和した

い、傾聴をしなければと思えば思うほど、訪室時の重たい雰囲気にもまれ、必要な状態観察しかできませんでした。結局、家族とは面談を行っても、最終的に患者様の本意を知ることができずに亡くなられました。その頃に、埼玉県立大学の緩和ケア認定看護師教育課程の募集をしていることを知り、「患者様が一番つらいときに傍に居て話ができるスキルを学びたい!」という一心で、受験しました。そこから、緩和ケア認定看護師の道を開くことになりました。半年の大学生活は大変なものでした。教育課程では、緩和ケアの知識や技術のみならず、自身の包み隠したい欠点や価値感などを徹底的に見つ

め直し、自身の考えや動向を知ることで、人として本当の意味で患者様と向き合う学びを得ることができました。とても、つらい作業でしたが、その作業を行ったことで、精神的にふさぎ込んでいる患者様に対して、逃げずに会話ができる自信を持つことができました。卒業してからは、傾聴を積極的に行い、患者様の本意を汲み取るケアを行って来ました。今年、緩和ケア認定看護師6年目となり、現在は、緩和ケア病棟に所属しています。



緩和ケア認定看護師 原島まどか

また、緩和ケアチームの一員として、一人でも多くの患者様が苦痛から開放され、家族とともに最期まで「じぶんらしく」過ごせる支援を病棟スタッフ・チームスタッフとともに一丸となって行っていきます。

シリーズ ① 医療の質の改善

病院同士で同じ「ものさし」を使って医療の質を測る

「医療の質を定量的に測るものさし」(臨床指標または医療指標)を用いた改善活動は、今ではずいぶんと多くの病院で取り組まれるようになりました。その促進要因のひとつに、厚生労働省が2010年から実施している「医療の質の評価・公表等推進事業」があり、これまでに6つの団体が委託協力団体となっています。

行可能だったのかも含めて前回の入院治療の達成度合いを表す指標のひとつとされています。

病院会(図1)の平均は5%台で、参加病院の半数が4~6%の範囲です。一番低いところは1%、高い病院は10%以上のところもあります。民医連(図2)のデータは2011年(うすい棒)と2012年(濃い棒)のセットが1つ1つの病院です。病院会と比べると低くなっていますが、十分説明されて入院が予期されていたケースを除いていますので団体間で差があるわけはありません。見ていただきたいのは、ほとんどの病院が2012年は高かったが2013年は低下していることです。2013年はまだ4ヶ月分ですが、全体としては2012年の半分程度となっています。退院から6週間(42日間)の緊急再入院は、退院療養計画が実

ことがわかります。当院は図1ではちょうど平均値、図2では低い方(左)から3分の1ほどです。それぞれの病院が自院より少ない病院は何が違うのか、どんな工夫をしているのかなどを知って自院の改善を図ることで、会全体として質をあげることに繋がります。

これらのデータは各団体のホームページで公表されており、指標の意味なども解説されていますので、ご覧になってみてください。

(診療情報部)

図1 病院会

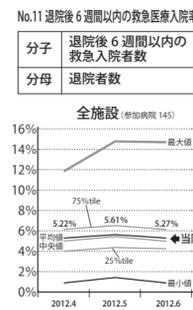
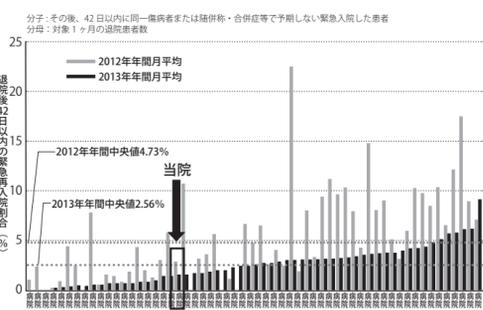


図2 民医連 指標5:退院後42日以内の緊急再入院割合(参加病院81)



当院と医療連携している

36

開業医さんのご紹介 栗原内科医院



小山 祐康先生

今年4月より前院長の栗原博先生(現理事長)に代わり、私が院長に就任しました。昭和50年の開院以来約38年間、地域に根ざした医療を心がけ、通ってくださる患者様に感謝して、その期待に応えられるように日々診療を行っています。

私の専門は消化器で、現在も大学病院での専門治療を行っております。妻と前院長は循環器専門となっており、内科全般の診療についてお気軽にご相談ください。医師3人体制ですので、スムーズな診療を提供し、ベテランのスタッフとともに患者様に寄り添い、親身になって対応しています。

さまざまな事情を抱えた高齢者の方が増えてくる中で、協同病院にはそういう方々のいざという時の入院受け入れを含め、地域の急性期病院としての力を発揮してもらいたいと思います。

院長: 小山 祐康



【診療科】

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00~11:30	○	○	○	○	○	○	—
午後15:00~18:00	○	○	○*	○	○	—	—

*水曜日の午後は14:00~17:00

【診療科】内科一般、胃腸科、循環器科
【休診日】土曜日の午後、日祭日

*「ふれあい」に掲載の開業医さんを受診される際は、受診前に必ず問い合わせをお願いします。

夏休み企画

いのちの授業公開講座

助産師から子どもたちへのメッセージ

もうすぐ夏休みが始まります。

今年の夏休みは当院で「いのちの授業」に参加してみませんか?

いのちの授業を始めて7年目になります。私たち助産師が、日々の仕事の中で感じる「いのち」の大切さを伝える活動をしています。

小学校・学童をはじめとして、中学校・高校からも講演依頼を受けています。

普段は病院外での活動が中心ですが、地域の組合員さんをはじめ、より多くの人に私たちの活動を知っていただきたく、今回ふれあい会館で「いのちの授業」を開催いたします。

皆様ぜひお越しください。



場所 ふれあい会館第1会議室

料金 1人100円(受講料)

申し込み方法 電話、E-mailにて受け付けております。

☎048-296-4771 担当:産婦人科外来

受付時間 月~金 14:00~17:00

E-mailアドレス: inochi@mcp-saitama.or.jp

参加者のお名前、ご年齢、保護者同伴有・無、連絡先を明記して上記アドレスに送信をお願いします。

開催日時 8月3日(土)

対象者 小学生(希望があれば就学前も可。基本的には保護者同伴をお願いします。お子様のみの参加であれば送迎をお願いします。)

時間 受付13:30~ 開始14:00 終了15:00

5月の特別食 憲法について考える日に

献立

しょうご飯
鶏のくわ焼き
わけぎの酢味噌かけ
すまし汁
豆乳プリン



食養科では月に1回特別食をお出ししています。5月は憲法記念日にいつもと違ったお食事をお出ししました。

食事の献立表と一緒に、「日本国憲法について考えませんか?」というメッセージカードをつけました。患者様より特別な献立で美味しかった、という感想のほか、憲法9条、96条を

守りましょうという意見や、人権保障、選挙権についての意見なども寄せられました。

平和や人権・社会保障について少しでも考えるきっかけとなったと感じました。

(食養科 濱本可菜子)

虹の投書箱

状況に応じて、患者様に事情をお伝えします

問 夜間で患者数が少ないのに、待たされました。診察が遅いと思います。

答 診察をお待たせて申し訳ございません。待合室の患者様が少ない場合でも、夜間救急の時間帯は、重篤な患者様もいらっしゃいます。お一人にスタッフが集中して治療にあたる場合があります。状況に応じて、お待ちになっている患者様に事情をお伝えして、ご理解をいただけるよう努力いたします。救急医療へのご理解・ご協力をお願いいたします。

回答者: 内村 幸一(事務長)

協子ちゃんの

健康マメ知識

第139回

●C型肝炎の検査について●

今回はC型肝炎ウイルス(HCV)についてお話します。

HCVは1988年に米国カイロン社【Chiron】(2006年にノバルティス社によって買収合併された)が輸血後に発症する非A非B型肝炎の原因ウイルスの遺伝子クローニングに成功したことを発表し1989年4月に論文報告され、カイロン社のCをとって『HCV』と名前がつけられました。HBVとは名前が似ていますが親戚でも近縁でもありません。

HCVは感染直後の症状が軽く、感染に気づくことなく慢性肝炎に移行することがあります。さらに肝硬変、肝細胞がんへと進行するこ

公開講座

乳がんの早期発見のすすめ



5月18日(土)川口フレンディアにおいて、がん研有明病院の田田益次郎先生をお迎えし「乳がんの早期発見のすすめ」をテーマに公開講座が行われました。当日は150人の方に来場いただき、大盛況でした。現在、乳がんになる日本人女性は増加傾向にあり、生涯のうちに乳がんにかかる割合は15~20人に1人と言われております。残念なことに死亡数も年々増加しています。お話の中で特に印象的だったことは「乳がんは早期発見・早期治療を行えば治る病気」ということでした。早期発見できれば乳房を残すことも可能です。その為には日頃からの自己検診や医師による定期検診が欠かせません。厚生労働省では40歳以上の女性に対して2年に1度の乳がん検診を推奨しています。当院でも乳がん検診でマンモグラフィーやエコー検査を実施しております。乳腺外来もありますので、乳房のことで心配事や不安な症状があればお気軽にご相談ください。(地域保健部 保健師: 照屋奈保美)

病院を利用される患者様へ

クールビズ実施のお知らせ

医療生協さいたまは、いのちと安全・安心な暮らしが守られることを何よりも重視する立場から、「原発ゼロ」を求めます。原発に頼らない低エネルギー社会実現に寄与する一環として、節電を進めたいと考えています。

そこで、今夏も電力消費削減の取り組みとして室温(主に職員が利用するスペースの室温)を28℃に設定します。

実施期間

- *室温設定28℃
- 5月15日~10月31日
- 外来スペースも状況により調整致しますので気なる方は職員にお声かけください。
- *職員はノーネクタイ、ノー上着とさせていただきます場合があります。
- ~ご理解・ご協力をお願いいたします~

とがあるので、警戒しなければならぬ病原ウイルスのひとつとされています。

感染経路として以前は輸血による感染が多く見られましたが、日本赤十字社の安全対策のひとつとして世界最高水準の検査が行われ、輸血その他の血液製剤による新たなC型肝炎の発生は限りなくゼロに近づいています。

HCVの検査には抗体の検出とHCV-RNAの検出法があります。急性C型肝炎においてHCV抗体の陽性化には感染後通常1~3カ月を要するので感染の時期、治療状態によって検査を組み合わせると診断を行います。

